

# 令和元年度 病害虫発生予察情報

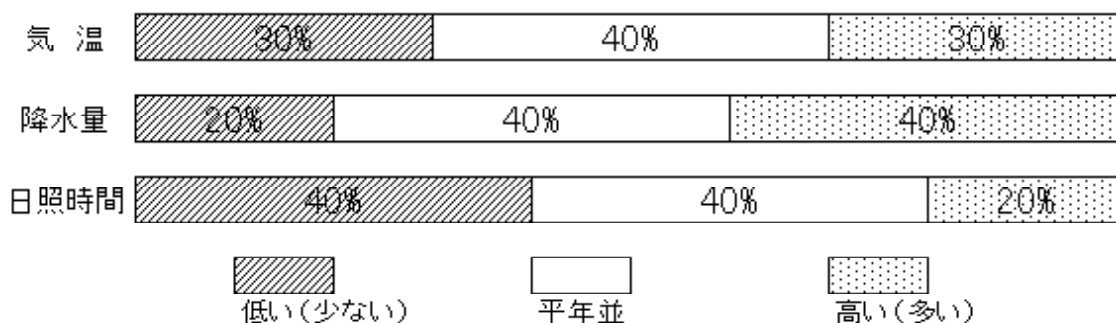
## 発生予報第5号（7月下旬～8月中旬）

令和元年 7月19日  
島 根 県

### 予報の概要

区分	農作物名	病害虫名	予想発生量		
普通作物	イネ	葉いもち	やや少ない		
		穂いもち	平年並		
		紋枯病	やや少ない～平年並		
		白葉枯病	平年並		
		縞葉枯病	平年並～やや多い		
		ヒメトビウンカ	多い		
		ニカメイチュウ	やや少ない～平年並		
		ツマグロヨコバイ	平年並～やや多い		
		セジロウンカ	平年並		
		トビイロウンカ	多い		
		コブノメイガ	やや多い		
		斑点米カメムシ類	平年並～やや多い		
		果樹	ナシ	黒斑病	平年並～やや多い
				黒星病	少ない～やや少ない
				シンクイムシ類	平年並
				ハダニ類	平年並
				アブラムシ類	少ない
カキ	うどんこ病			平年並	
	チャノキアザミヤ			平年並	
果樹全般	カメムシ類			平年並	

中国地方1か月予報(7月20日～8月19日・広島地方気象台7月18日発表)  
<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



### A. 普通作物

#### 1) イネ

##### (1) 葉いもち

予報内容

発生地方

県内全域

発生量

やや少ない

予報の根拠

- ① 7月中旬の巡回調査(70ほ場)では、発生を認めていない(平年の発生ほ場率は10.7%、発病株率は3.4%)。
- ② 県内の一部ほ場で発生が確認されている。
- ③ 7月9～15日を中心に感染好適日が出現している。
- ④ 向こう一か月の気象は、本病の発生にやや助長的である。

- (2) 穂いもち  
 予報内容  
 発生地方 県内全域  
 発生量 平年並  
 予報の根拠  
 ①伝染源となる葉いもちの発生量はやや少ないと予想される。  
 ②向こう一か月の気象は、本病の発生にやや助長的である。
- (3) 紋枯病  
 予報内容  
 発生地方 県内全域  
 発生量 やや少ない～平年並  
 予報の根拠  
 ①7月中旬の巡回調査では、発生ほ場率は2.9%（平年7.1%）、発病株率が0.1%（平年0.7%）と平年に比べてやや少ない。  
 ②向こう一か月の気象は、本病の発生にやや助長的である。
- (4) 白葉枯病  
 予報内容  
 発生地方 県内常習発生地帯  
 発生量 平年並  
 予報の根拠  
 ①7月中旬の巡回調査では発生を認めていない。  
 ②向こう一か月の気象は、本病の発生にやや助長的である。
- (5) 縞葉枯病  
 予報内容  
 発生地方 県内全域  
 発生量 平年並～やや多い  
 予報の根拠  
 ①媒介虫であるヒメトビウンカの発生量が多いと予想される。  
 ②4月中旬の越冬世代成幼虫のイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率は0%（過去10年の平均1.5%）と低く、6月中旬の成虫の保毒虫率も0%と低い。
- (6) ヒメトビウンカ  
 予報内容  
 発生地方 県内全域  
 発生量 多い  
 予報の根拠  
 ①7月中旬の巡回調査では、発生ほ場率は58.7%（平年39.6%）、捕獲数は26.4頭（平年3.9頭/50株）で発生量は平年に比べて多い。  
 ②予察灯（出雲市）における誘殺数は平年並み、ネットトラップ（出雲市）における誘殺数は平年と比べてやや多い。  
 ③向こう一か月の気象は、本種の発生を特に抑制する要因とはならない。
- (7) ニカメイチュウ（第1世代）  
 予報内容  
 発生地方 県内全域  
 発生量 やや少ない～平年並  
 予報の根拠  
 ①7月中旬の巡回調査では、発生ほ場率は0%（平年6.6%）、被害株率は0%（平年0.24%）で発生量は平年に比べてやや少ない。  
 ②予察灯（出雲市）、フェロモントラップ（出雲市）における誘殺数は平年並みである。  
 ③向こう一か月の気象は、本種の発生を助長する要因とはならない。
- (8) ツマグロヨコバイ  
 予報内容  
 発生地方 県内全域  
 発生量 平年並～やや多い  
 予報の根拠  
 ①7月中旬の巡回調査では、発生ほ場率は43.5%（平年56.7%）、捕獲数は6.8頭（平年10.9頭/50株）で発生量は平年並みである。  
 ②予察灯（出雲市）での誘殺数は51頭（平年20.0頭）で平年と比べてやや多い。  
 ③向こう一か月の気象は、本種の発生を助長する要因とはならない。

(9) セジロウンカ

予報内容

発生地方 県内全域  
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 7月中旬の巡回調査では、発生ほ場率は45.7%（平年68.1%）、捕獲数は15.4頭（平年69.6頭/50株）で発生量は平年並みである。
- ② 7月10～12日の間に粘着誘殺灯（出雲市）で初飛来を確認した。誘殺数は平年に比べてやや少ない。
- ③ 向こう一か月の気象は、本種の発生を助長する要因とはならない。

(10) トビイロウンカ

予報内容

発生地方 県内全域  
発生量 多い

予報の根拠

- ① 7月中旬の巡回調査では、発生ほ場率は13.0%（平年1.9%）、捕獲数は3.0頭（平年0.04頭/50株）で発生量は平年に比べて多く、過去10年で最も多い。
- ② 7月第2半旬までに予察灯（出雲市）、粘着誘殺灯（出雲市）、ネットトラップ（出雲市）で誘殺されていない。
- ③ 向こう一か月の気象は、本種の発生を特に抑制する要因とはならない。

(11) コブノメイガ

予報内容

発生地方 県内全域  
発生量 やや多い

予報の根拠

- ① 7月中旬の巡回調査では、発生ほ場率は13.0%（平年4.9%）、被害株率は0.20%（平年0.13%）で発生量は平年と比べてやや多い。
- ② 予察灯（出雲市）、粘着誘殺灯（出雲市）で誘殺されていない。
- ③ 向こう一か月の気象は、本種の発生を助長する要因とはならない。

(12) 斑点米カメムシ類

予報内容

発生地方 県内全域  
発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

- ① 7月11～17日に収穫している極早生ほ場ですくい取り調査を行ったところ、カメムシ類合計で発生ほ場率は76.5%（平年81.4%）で平年並みであり、平均捕獲虫数は13.2頭/20回振り（平年6.7頭）と平年に比べてやや多い。主要種はアカスジカスミカメである。
- ② 6月下旬のほ場周辺雑草地でのすくい取り調査では斑点米カメムシ類合計で発生ほ場率は55.6%（平年66.2%）で平年に比べてやや少なく、平均捕獲虫数は7.1頭/20回振り（平年8.2頭）と発生量は平年並みである。
- ③ 向こう一か月の気象は、本種の発生を特に助長する要因とはならない。

B. 果樹

1) ナシ

(1) 黒斑病

予報内容

発生地方 ナシ（二十世紀）栽培地帯  
発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

- ① 6月下旬の巡回調査では、発病葉率6.7%（平年6.5%）であり、発生量は平年並みである。
- ② 向こう一か月の気象は、本病の発生にやや助長的である。

(2) 黒星病

予報内容

発生地方 県内全域  
発生量 少ない～やや少ない

予報の根拠

- ① 6月下旬の巡回調査では、発病葉率0.1%（平年1.3%）であり、発生量は平年と比べて少ない。
- ② 向こう一か月の気象は、本病の発生にやや助長的である。

(3) シンクイムシ類

予報内容  
発生地方 県内全域  
発生時期 平年並  
発生量 平年並

予報の根拠

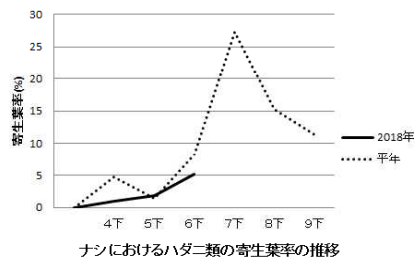
- ①フェロモントラップ（安来市、出雲市）でのナシヒメシンクイ雄成虫の誘殺時期は平年並み、誘殺数は平年並みである。
- ②向こう一か月の気象は、本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(4) ハダニ類

予報内容  
発生地方 県内全域  
発生量 平年並

予報の根拠

- ①6月下旬の発生量は寄生葉率5.8%（平年8.6%）、寄生虫数11.3頭/50葉（平年18.8頭）と平年並みである（グラフ参照）。
- ②向こう一か月の気象は、本種の発生を特に助長する要因とはならない。

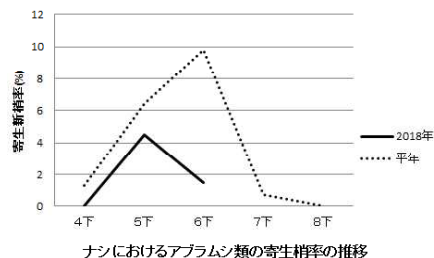


(5) アブラムシ類

予報内容  
発生地方 県内全域  
発生量 少ない

予報の根拠

- ①6月下旬の寄生新梢率1.3%（平年9.8%）、寄生度0.3（平年3.2）と平年に比べて少ない（グラフ参照）。
- ②黄色水盤への有翅虫飛来数は平年並みである。
- ③向こう一か月の気象は、本種の発生を特に助長する要因とはならない。



2) カキ

(1) うどんこ病

予報内容  
発生地方 県内全域  
発生量 平年並

予報の根拠

- ①6月下旬の巡回調査では、発生を認めていない（平年の発病葉率は0.49%）。
- ②向こう一か月の気象は、本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) チャノキイロアザミウマ

予報内容  
発生地方 県内全域  
発生量 平年並

予報の根拠

- ①露地ほ場に設置した粘着トラップでの誘殺数は平年並みである。
- ②向こう一か月の気象は、本種の発生を特に助長する要因とはならない。

3) 果樹全般（カキ、ブドウ、ナシ等）

(1) カメムシ類

予報内容  
発生地方 県内全域（特にナシ無袋、カキ栽培地帯）  
発生量 平年並

予報の根拠

- ①7月第3半旬までの予察灯でのチャバネアオカメムシ、クサギカメムシ、ツヤアオカメムシ3種の合計誘殺数は194頭（平年371.0頭）で平年並みである。
- ②向こう一か月の気象は、本種の発生を特に助長する要因とはならない。

**農薬の安全使用の徹底を！**

- ・ 農薬の使用基準（適用作物、使用量又は濃度、使用時期、総使用回数）を遵守する。
- ・ 防除履歴（使用日時と場所、作物名、農薬の種類と量）を記帳する。
- ・ 農薬散布時には周辺作物に飛散（ドリフト）しないように注意する。
- ・ 水田で使用する農薬の止水期間を守る。
- ・ 有効期限切れ農薬は使用しない。
- ・ 散布後は散布器具の洗浄を徹底し、空き容器は正しく処理する。
- ・ 病害虫の発生状況を把握し、必要最小限の農薬使用に努める。

○病害虫防除所のホームページでは発生予察情報の他、各種情報を掲載しています。

島根県病害虫防除所

TEL 0853-22-6772

FAX 0853-24-3342

ホームページ

<http://www.pref.shimane.lg.jp/nogyogijutsu/byougaityuu/>